

高齢者の交通死亡事故

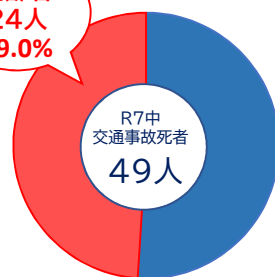
令和7年中、京都府内では**49人**の方が交通事故で亡くなられています。
そのうち、**24人**が**65歳以上**の高齢者で、全体の**約5割**を占めています。

● 交通事故発生状況

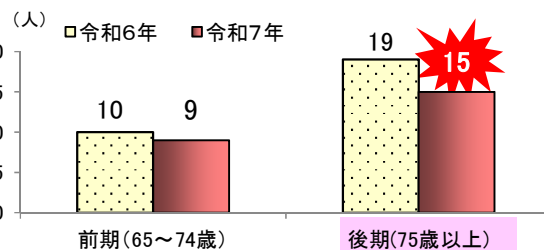
※ ()は前年対比

	発生件数【件】	負傷者数【人】	死者【人】
交通事故全体	3,586(-159)	4,058(-175)	49(-3)
うち高齢者が関係する事故	1,248(-122)	632(-81)	24(-5)

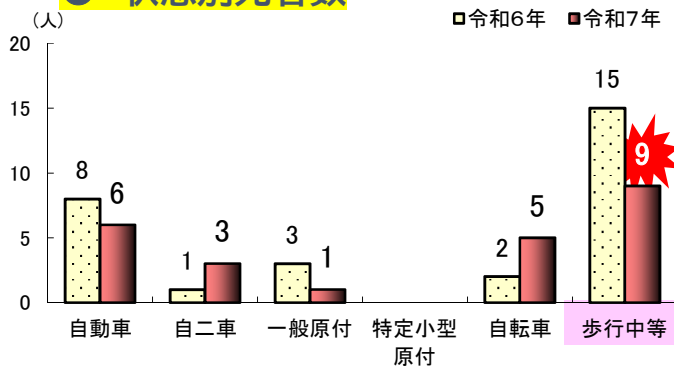
高齢者
24人
49.0%



65歳以上の交通事故死者(24人)のうち、75歳以上の方が約6割(15人)を占めています。



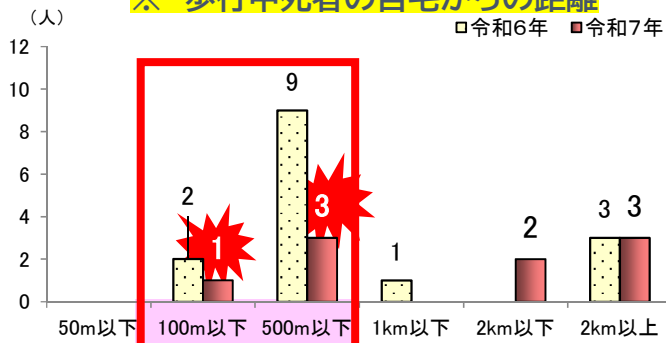
● 状態別死者数



歩行中が最多となっています。
「歩行中」の中でも、「道路横断中」の交通事故が約4割を占めています。

少し遠回りになっても、信号や横断歩道を利用し、車などが来ていないか、まわりの安全をよく確かめてから横断しましょう。

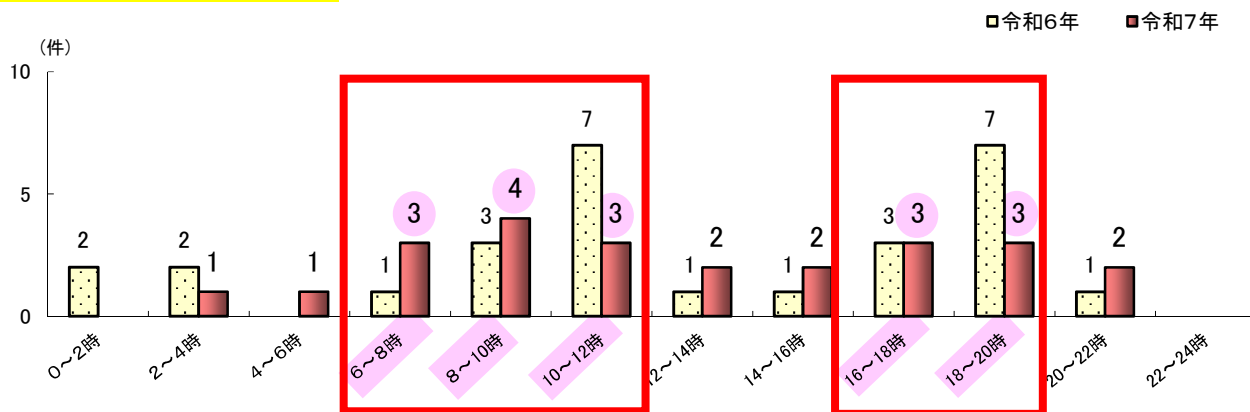
※ 歩行中死者の自宅からの距離



歩行者の多くは、自宅から500m以内で交通事故に遭われています。



● 時間帯別発生件数



午前中、日没前後に交通事故が発生しています。

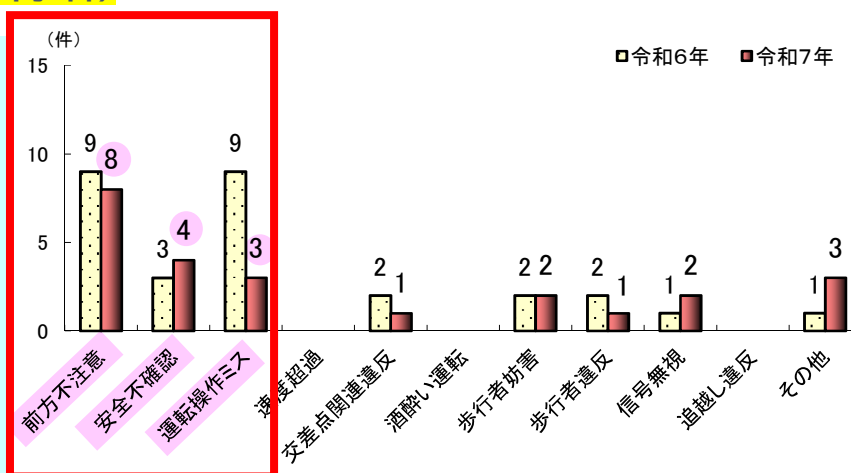
夕方から夜間の外出では、ドライバーは「**早めのライト点灯**」で歩行者等の早期発見に努め、歩行者は「**反射材用品の活用**」で、運転者から目立つ工夫をしましょう。



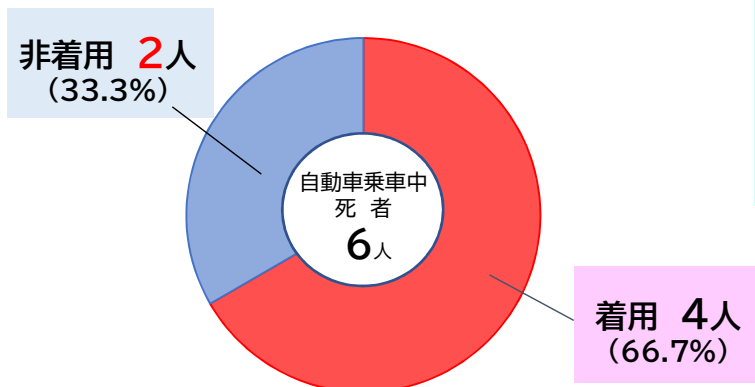
● 主な事故原因別(第1当事者)

車両の運転では、
前方不注意
安全不確認
運転操作ミス
が原因となる事故が目立ちます。

特に、交差点やその付近では、状況に応じて徐行や停止をして、確実に安全を確かめましょう。



● シートベルト着用有無別



自動車乗車中死者(6人)のうち、2人はシートベルトを着用していれば生存の可能性があります。
後部座席を含む全ての座席でシートベルトを着用しましょう!



京 都 府 警 察